



## 「こんにちは 市長です」

9月15日号

5、6年前、石巻商工会議所青年部のY君に「復興したらおた芸術学校を石巻に」と約束をした。コロナがあってその機会がずれたが、石巻市役所との調整ができ8月下旬に訪問が実現した。11年前の春、石巻を訪れた。2万人近くが津波によって命を失い、まちには倒壊した家々がごみくずのように放置されていた。信号機も倒れたまま、昼間でも人影はなかった。海岸近くにある小高い山から見ると、海がまちをのみ込んだ1カ月後の石巻の景色があった。ひどかった。市役所は街中のデパートを間借りしていた。11年後のまちはどこまで復興したか、知りたかった。

仙台でレンタカーを借りた。以前通った道をたどりたかった。まちの真ん中を流れる運河沿いを走ると左にイオンがある。橋を渡ると景色は一変。当時はがれきが積み、水気の抜けていない材木をよけながら走った。そこは今どうなったのかな？秘書室の職員が同行し、運転してくれた。思い描く道とは違う道、石巻港の方に向かった。「あれ、防潮堤かな？」そう思わせるような長くて大きな屋根。魚市場だった。防潮堤はその前方に、海岸線に沿って築かれていた。上った先から下を見ると、魚船は防潮堤の内側につながられ波に揺れることもなく静止していた。漁港に波が届かない。海辺は変容した。海岸沿いには釣り人が黙々と釣り糸を垂れていた。市場周辺の分譲地には真新しい漁業関連の会社が並んでいた。その裏があの小高い山、日和山公園である。途中、骨格だけを残した小学校があった。公園に行く道の周りの墓石がやけに多かった。公園からは海岸沿いの全風景が見える。真新しいまちが目に入ってきた。きれいなまちだ。市民会館も新品だった。

石巻の齋藤市長と今後の文化交流を約束して帰途に就いた。(8/22 記)